

## 第1回沼津市男女共同参画基本計画アドバイザー会議 社会福祉課資料

## ◇婦人相談（女性相談）とは

婦人相談(所)は、売春防止法第34条第1項により都道府県に設けられた行政機関で、婦人保護事業の中核機関として要保護女子（性行又は環境に照らして売春を行うおそれのある女子）の早期発見、転落の未然防止及び保護更生のための業務を行っています。

また、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（通称：DV防止法）に基づき、配偶者暴力相談支援センターとしてDV被害者の支援機能が付与されています。

相談窓口として「女性相談」と呼ぶ場合は、以上の売春防止法、DV防止法などに基づく相談だけでなく、女性が抱える悩み全般を広く受け付けて支援する相談窓口となっています。

市町村に婦人相談所の設置義務はありませんが、平成19年のDV防止法の改正で、市町村における配偶者暴力相談支援センターの設置が努力義務となりました。

これら法整備や男女共同参画の流れとともに、女性相談を設置する市町村がある程度増加しました。現在の県内の女性相談（婦人相談員の配置）は別添資料1のとおりです。

## ◇女性相談で対応する主な対象者・相談内容

DV被害者、ストーカー被害者、性暴力被害者、売買春、住居喪失、未成年、妊娠・出産、精神疾患や知的障害を抱えた女性、家庭不和、離婚、母子家庭、日系・在留外国人、人身取引被害者、男性DV被害者、LGBTなどの性的マイノリティ、児童をはじめとする虐待被害者、健康・医療、就労、家計・借金など

本市の女性相談の平成30年度実績は別添資料2のとおりです。

## ◇市民意識調査における市民のDVに対する認識

別添資料3のとおりです。

## ◇DV防止基本計画の策定について

別添資料4のとおりです。



市町におけるDV施策推進状況について

別添資料 1

○策定・設置済、△策定・設置検討中、×予定なし

(基本計画について、OD=DV単独計画、○他=他計画にDV対策の記載あり)

(ネットワークについて、OD=DV単独設置、○J=児童虐待と一体設置)

市町	市町名	策定	設置	ネットワーク	その他
賀茂	下田市	×	○J	×	×
	東御市	△(未定)	○J		×
	神代町	×	○J		×
	藤原町	×	○J		×
	西条市	△(未定)	○J		×
熱海	熱海市	○他	OD	○	×
	伊豆市	×	○J	○	×
東部	沼津市	△(R3予定)	○J	○	×
	島田市	OD	○J	○	×
	藤原市	○他	×	×	×
	伊豆市	△(未定)	○J	○	×
	伊豆市	△他(未定)	○J	○2名	×
	伊豆市	△(未定)	△(未定)		×
	伊豆市	○他	○J		×
伊豆市	△(未定)	△(未定)		×	
御殿場	御殿場市	○他	○J	○	×
	小笠原町	○他	○J		×
富士	富士市	OD	OD	○	×
	富士市	OD	OD	○2名	○
中部	日田市	○他	○J	○	×
	幡豆町	○他	OD	○	×
	藤原市	OD	○J	○	×
	新田町	×	○J	○	×
	吉田町	○他	○J		×
	御油町	○他	○J		×
西部	西条市	○他	○J	○	×
	新田町	○他	○J	△(未定)	×
	新田町	○他	○J	×	×
	新田町	○他	○J	△(未定)	×
	新田町	×	○J	○	×
	新田町	○他	×	×	×
	新田町	×	○J		×
政令市	静岡市	OD	△(未定)	○3名	○
	静岡市	○他	OD	○4名	○

※令和元年12月1日現在

※△策定・設置検討中の( )書きは、市町の目標時期

○策定・設置済	20	57.1%	30	85.7%	17	74.0%	3	8.6%
△策定・設置検討中	7	20.0%	3	8.6%	2	8.7%	0	0.0%
×予定なし	8	22.9%	2	5.7%	4	17.4%	32	91.4%



## 沼津市の女性相談の平成30年度実績

女性（婦人）相談員を配置し、支援や保護の必要な女性の発見に努め、相談に応じ、自立等のために必要な助言、援助を行っています。

女性からの相談内容は、配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）に関するものが最も多いです。

## (1) 相談内容別受付状況

(平成30年度)

主訴別受付状況		相談実人数(人)	
1 人間関係	夫等	1 夫等の暴力	148
		2 酒乱・薬物中毒	0
		3 離婚問題	59
		4 その他	1
	子ども	5 子どもの暴力	1
		6 養育不能	12
		7 その他	1
	親族	8 親の暴力	21
		9 その他の親族の暴力	6
		10 その他	3
	11 交際相手の暴力	15	
	12 その他の者の暴力	1	
	13 男女問題	0	
	14 家庭不和	3	
	15 その他	11	
2 経済関係	1 生活困窮	6	
	2 借金・サラ金	8	
	3 求職	4	
	4 その他	1	
3 医療関係	1 病気	3	
	2 精神的問題	68	
	3 妊娠・出産	1	
	4 その他	0	
4 その他	1 住居問題	1	
	2 帰宅先なし	8	
	3 不純異性交遊	0	
	4 売春強要	0	
	5 ヒモ・暴力団関係	0	
	6 5条違反	0	
	7 人身取引	0	
5	ストーカー	1	
計		383	

(2) 年齢別受付状況

(単位：人)

	年 齢 別	相談実人数
1	18歳未満	0
2	18歳～19歳	7
3	20歳～29歳	75
4	30歳～39歳	114
5	40歳～49歳	100
6	50歳～59歳	61
7	60歳以上	22
8	不明	4
	計	383

## 平成29年度市民意識調査における市民のDVに対する認識等

平成29年度市民意識調査において以下の4つについて調査しました。

<p>(1) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法（DV防止法）の認知度</p>
<p>〔質問〕 夫婦や恋人の間における暴力に対し、裁判所によるDV被害者の保護命令制度や、相談窓口となる婦人相談所や婦人相談員の位置付けなど、被害者保護及び支援を定めたDV防止法(H13年施行)が施行されていることの意味を聞いた。</p>
<p>〔結果〕 内容は知らない人を含め、市民の約8割は法律があること自体は知っていた。ただし、男女比では、法律とその内容も知っている割合が、男性は3割弱に対し、女性が2割強と低いことがわかった。今後もDV防止の啓発の中で、法律などの支援の仕組みの理解を深めていく必要がある。</p>
<p>(2) DVの被害経験</p>
<p>〔質問〕 自分自身や身近な人がDV被害を受けたり、DVを見聞きした経験を聞いた。</p>
<p>〔結果〕 「テレビや新聞、インターネットなどで、見聞きしたことがある」が7割近く(67.4%)の市民は各種メディアにより、DVについて見聞きしている。 また、実際に自分自身DVを受けたことがある人は約1割(10.7%)、また、親族や友人など身近な人がDVを受けたことがある人は約2割(20.3%)となっており、被害者支援や被害防止に向けた取り組みが必要である。</p>
<p>(3) DVの相談窓口の認知度</p>
<p>〔質問〕 DVについて、相談できる窓口として、警察や行政などどのようなものを知っているか聞いた。</p>
<p>〔結果〕 相談窓口として最も認知されているのが警察で約7割、次いで市役所が約3割であったが、一方で約2割が「窓口を知らない」と回答し、被害者を早期に保護及び支援につなげる上では、相談窓口の周知が必要である。</p>
<p>(4) DV防止や対策の施策について</p>
<p>〔質問〕 DVを防止するために必要なことを聞いた。</p>
<p>〔結果〕 相談窓口についての周知・PRが5割弱と最も多く、次いで安全に過ごせる避難場所の確保が4割弱、加害者に対する罰則をつくることと同じく4割弱であった。 年代別では、特にDVの被害者・加害者になりやすいとされる20・30・40代のそれぞれ約5割が安全に過ごせる避難場所の確保、加害者に対する罰則を必要としている。まずは相談窓口についての周知を図り、悩みを抱える人が相談しやすい環境づくりが重要であると考えられる。</p>

## 2 本市におけるDVの現状

### 特徴

- ・虐待やDVの事件により市民認識が上がっており相談件数や実人数は増加傾向
- ・在住外国人の相談対応がある。
- ・母子の一時保護、転居における他自治体の教育委員会との連携に課題が多い。
- ・一時保護の際に被害者が行動制限を守れない。
- ・被害者の自立支援において他自治体や関係機関と緊密に連携している。
- ・LGBTへの関心の高まりを背景に一定の相談者がある。

## 沼津市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画 (DV基本計画)の策定について

### 1 DV防止基本計画

- 平成19年のDV防止法改正で市町村基本計画の策定が努力義務化
- DV基本計画と盛り込む内容が重複する他の計画と一体で策定可能(国の基本指針)
- 県内で策定しているのは13市
  - ・単独策定 6市(静岡・藤枝・富士・富士宮・三島)
  - ・男女の計画と一体で策定 7市(浜松・袋井・磐田・島田・掛川・焼津・御殿場)

### 2 男女共同参画におけるDVへの対応

- 沼津市男女共同参画推進条例(制定H20年3月)
  - 第9条第2項 何人も夫婦及び恋人を含むすべての男女間において身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為を行ってはならない。
- 第4次沼津市男女共同参画基本計画(策定H28年3月、計画期間H28年度～H32年度)
  - 基本理念Ⅱ 性の尊重と生涯にわたる心身ともに健康な生活の実現
  - 基本的施策2 女性に対する暴力等の根絶
    - 施策の方針 (5)セハラ・マハラ・DV等の女性への暴力防止に向けた啓発・防止対策の推進
    - (6)被害者への相談体制の充実と自立支援
- 沼津市女性活躍推進計画(策定H29年3月)

### 3 計画策定の趣旨

- 男女共同参画推進条例の制定(H20年)や第4次沼津市男女共同参画基本計画の策定(H27年度)
- 女性に対する暴力等の根絶を目指してDVに関する相談業務や被害者支援に取り組んできた。
- 今後もDVの根絶に向け、本市のDVの現状把握と取り組みの整理、着実に推進する姿勢の明確化、DV被害者保護・支援の充実、そして、関係機関の連携による体制づくりなどを目指し、男女共同参画基本計画に位置づけられた「女性に対する暴力等の根絶」を具体的・計画的に進めるためのDV基本計画を策定する。

### 5 計画の基本理念

- 沼津市男女共同参画推進条例 前文抜粋
  - 「すべての人が、その性別にかかわらず、一人ひとりの人権が尊重され、家庭、職場、学校、地域その他あらゆる場において、その個性と能力を十分に発揮し、生涯にわたりのような状況においても、心豊かに生活できる社会の実現」
- 第4次沼津市男女共同参画基本計画の基本的施策2「女性に対する暴力等の根絶」

### 6 計画の体系のイメージ

- 第5次沼津市男女共同参画基本計画(計画期間:令和3年度～7年度)にDV基本計画を包含して策定。
- 静岡県では市町がDV防止計画を策定する際の雛形を示し、DV防止の普及啓発、相談体制づくり、被害者の安全確保、そして、被害世帯の自立支援の4つの目標を柱に策定することを示しています。本市もこの基本目標に必要な施策を掲げながら策定します。

### 7 策定・推進体制

- 沼津市男女共同参画推進委員会及びアドバイザー会議などの意見を踏まえて策定
- 沼津市男女共同参画推進委員会により進捗管理

